



曾根田通信

第 21 号

平成 29 年 7 月

株式会社追客力 電話：03-4455-9265 F A X：03-5539-4783

■■■この曾根田通信は、私がこれまでご縁のあった方にだけ差し上げている個人通信です■■■

いよいよ夏本番ですね。あまり雨が降らなかった今年の梅雨、水不足が心配です。息子は水を無駄に使うことが多いので、いつも叱っていますが、ニュースに水不足の内容が出てから少しずつ、節水の意識を持ち始めました。こんな時こそ、水の大切さをかみしめて使っていこうと思います。

◆ 初めてのうどん作りは大失敗 ◆

子供は麺類が好きです。私の息子も例外にもれず、大好きです。
その中でもざるうどんが一番の好みで、近くの丸亀製麺によく行きます。
ある時、実際にうどんを作っている職人さん姿を見ていると、息子が「うどん作りたい～」と発言。
試しにクックパッドで調べてみたところ、意外に簡単。いっちょやってみるかと私自身も初めてうどん作りに挑戦しました。

材料は、小麦粉、水、塩の3種類。ピザよりもシンプル。
小麦粉と水を混ぜ、こねる仕事を息子に任せました。
息子はこねることなど忘れて、小麦粉で大きくなった自分の手を見て「怪物だぞ～」と遊びに興じていました。
一緒になって遊んでいたのですが、それがきつとまずかったのでしょうか、お水を入れすぎてしまったのか、味噌のような柔らかさになってしまい、慌てて小麦粉を追加しつつ挽回しようとしても後の祭りです。

うどんが写真のような蕎麦がきのようなものができあがりました。
とはいえ、初めて作ったうどんは格別だったようで息子は「美味しいね～」とバクバク食べてくれました。

次回以降は私がこねる作業を行い、ある程度まとまってから息子に踏みつけてもらうという分担で再チャレンジしていこうと思います。



◆ 今月の名言 ◆

できるかできないかを考える前に、まず一步踏み出す

堀江泰（堀江車輛電装社長）

以前、編集後記でご紹介しましたが、新しいサービスを開発中です。
使いやすく楽しいサービスを、と考えて仕様を決めましたが、かなり大きな開発になりました。
一步踏み出してみたわけですが、もう後戻りできないので突き進むしかないですね。
踏み外さないよう地に足をつけ、しかしできるだけ早く進んでいきたいと思っています。

◆ 追客サプリ ◆ AI・人工知能EXPOに見る人口知能の将来

6月に開催された、リードエグゼビジョンジャパン社が主催する第1回 AI・人工知能EXPOにお邪魔しました。現在、話題沸騰中のAIのサービスが一堂に会すということで、肩がぶつかるほどの人で溢れていました。

展示会ではAIを使った様々なサービスが紹介されています。主なものとしては、チャットボット(AIとチャットできる)、画像認識技術を利用した工場の検品システムなどが出展されていました。

私は勉強のために展示会にはいろいろと参加しますが、今回のAI・人工知能展は、

- ・出展企業が少ない
- ・どの会社もブースや販促物が紙ばかりでシンプル

ということに気づきました。

これは、ビジネスとして収益が出ているサービスはまだ少なく、会社から予算を割り振られていないとの裏返しなのだと思います。

出展している企業の中には、「貴社のやりたいことに応じてAIを使ったシステムを構築します！」という宣伝をしているところも多かったはそんな理由だと思います。開発企業自身が、どんなサービスを提供すればいいのかわかっていない(=ビジネスになっていない)ということですね。

それにもかかわらず参加者が多いのは、メディア側が人工知能を大きく宣伝しているからです。人の仕事がなくなるかもしれない、煽って気になる読者を集めているわけですね。

しかし、実態としては、まだまだAIや人工知能ができることは限られています。

実用化できているのは、機械学習・パターン学習で、ある一定の決められたシナリオを作り、それを人間がやっているかのように見せている、というものがほとんどです。

現在、安価で利用できることがうたわれているチャットボットは、よくある質問を分類し、パターン化して回答する、という使い方です。一部からは「人工無脳」と呼ばれています。

LINEで誰でも友達になる「りんな」というAI女子高生や「パン田一郎」というリクリートが開発した人工知能のチャットと会話しても、まだまだ自然な会話はできていません。

そんな天真爛漫な回答が面白い、という人向けのおもちゃのようなものですね。

現時点での私の所感ですが、AI・人工知能分野においては、画像認識は世界共通でマーケットサイズも大きくビジネスチャンスが広がっていくと考えています。

一方で、言語を使った場合のAIについては、日本ではなかなか大きなビジネスは生まれづらいと考えています。というのは、インターネットの世界で使われている言語で日本語は1億人ちょっとですが、英語人口は8.5億、中国語人口は7億。つまりマーケットサイズが大きく違います。そして日本語は習得が一番難しい言語と言われているので、パターン化しづらい。この2つの理由で日本語を使ったAIのサービスは開発しづらく、大きくなりづらいと考えています。とはいえ、時間が経てばこの問題も解決する技術が生まれてくるかもしれません。過度な期待や脅威を感じすぎず、冷静に情報を集めてもらえればと思います。



◆ 今月のオススメ 夏にホットコーヒー ◆

いよいよ夏本番になりました。30℃を超える日が日常になってきましたね。

こんな季節は、外回りをする営業にとってはかなり辛いもの。私も外出すると、すぐに汗が吹き出してしまいます。喫茶店ではアイスコーヒーを注文し、自宅に帰ればアイスという日々。

しかし、冷たいものばかりを口にしていると、胃腸が悲鳴をあげます。お腹を壊すこともしばしば。そのため、本当に自分自身が暑い時以外は、なるべく暖かいものを食するようにしています。

アイスコーヒーではなく、ブレンドコーヒー。ざるそばではなく天ぷらそば。冷たいお茶ではなく、温かいお茶。

すると体も安心するのか、胃腸も正常通りに動き始めました。

美人は冷たい飲み物を飲まない、とどこかで読んだことがありますが、健康には温かいものの方がいいのかもしれない。代謝がアップするので、ダイエットにもいいそうですね。

暑い夏を健康的に過ごせるよう、お身体、ご自愛ください。



～ 発行者コラム ～

○ 食育の一環として、家でキュウリを植え始めました。キュウリは暑さや寒さに強いんですね。7月に植えても3ヶ月で育つそうです。ただ気になっているのが酷暑。キュウリの耐熱温度は35℃。今の暑さを考えると、8月になったら平気で37℃とかになりそうです。無事に成長し、実がなることを願いつつ、息子に毎日水やりをさせています。



○ 8月1日より事務所を移転することにしました。現在の事務所は新宿御苑前ですが、次は上野です。渋谷に対抗してIT企業群を作ろうという動きがあり、それに賛同して移転することにしました。上野にお越しの際はぜひ遊びにお越しく下さい。ネスカフェアンバサダーでおもてないたします！

○ 相田みつお美術館というものが東京国際フォーラム内にあります。最近その会員になったのですが、定期的に展覧無料チケットが送られてきます。限定〇枚ですが、もしご興味のあるかた、いらしゃいましたらお声がけください。お配りいたします。

【プロフィール】

【氏名】 曾根田 太郎
【会社】 株式会社追客力
【出身地】 東京都江戸川区
【趣味】 読書(特に歴史小説)、靴磨き
【モットー】 七転び八起き
【その他】 自転車に乗っているとタイヤの空気がすぐに抜けます。経年劣化のようです。新しい自転車を買うか、タイヤを交換するか、妻稟議中です。

【経歴】大学卒業後、会計系コンサルティング会社を経て、大手不動産ポータルサイトを運営する会社に営業として転職し、ITと不動産について学ぶ。その後、WEBマーケティング会社を経て、(株)追客力を設立し、HPを使った営業支援システムを開発・提供しています。



曾根田太郎